

道の警戒ステージについて

道の警戒ステージについて

- 道では、国の分科会提言に準拠することを基本としながら、感染者が急増する前の段階における対策が重要であるという考え方の下、5段階のステージを設定し、運用してきた。
- この間、①変異株の影響等により急激な感染拡大に見舞われ、新規感染者数が少ない段階でのステージ区分の意義が薄れている、②緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が行われる中、国と道の警戒ステージの混同が見られるといった課題も生じている。
- こうした中、道としては、国と道とのステージ分類の統一（5段階⇒4段階）や国指標への統一を検討してきたところ。

国のステージ指標の見直しの動き

- ワクチンの接種が進む中、国においては、ステージ判断の指標のあり方について、専門家の議論を行った上で、見直しを検討する意向が示されている

（加藤官房長官の発言）

・今後、ステージ判断の基準の在り方については、ワクチンの接種が4月より格段に進んでいくこと、また今回の緊急事態宣言の下、医療提供体制の強化に取り組むことなど、こうした状況が変化していくことも踏まえ、専門家の議論も行った上で、政府としても議論を行っていきたい

（西村コロナ担当大臣の発言）

・（ワクチン接種が進むと、新規感染者数は）25人を超えても大丈夫かもしれない
・基準は今後一切変えないというものではない。ワクチン接種の効果、デルタ株をどう評価するのか、専門家に分析、検討を進めていただき、別の指標を加えるのか、参考資料として何かを考えるのか、検討をお願いしている

（尾身会長の発言）

・新規感染者数はこれからも当然大事であるが、重症者数や入院者数など、医療のひっ迫をより重視することを出口戦略の基本とするべきではないかと今のところ考えている

- 具体的には、次の視点で見直しが検討されているとの報道もある。
 - ・ 重症者病床使用率を重視
 - ・ 新規感染者数の数値を引き上げ
 - ・ ワクチン接種率等の指標の設定

今後の対応

- 8月中 必要最小限の見直し（5段階⇒4段階への見直し、国指標への統一など）
- 9月以降 国の検討状況に合わせた見直し